

尾瀬のシカは何を食べるか？

木道一枚ごとの調査からシカの嗜好性を探る

群馬県立尾瀬高等学校 理科部

キーワード：尾瀬、ニホンジカ、食害、被食率、木道

【はじめに】群馬県北部に位置する尾瀬ヶ原では、ニホンジカ（以下シカ）による食害が問題となっており、本校では2003年からライトセンサス調査やフィールドサイン調査などを行い、シカの行動パターンなどの解明に取り組んできた。最近、シカが湿原で食べる植物が変化しているという情報を得たので、シカの嗜好性を詳細に探るため、元々生えている植物の数と食害の数の割合を示す「被食率」を調べた。

【方法】尾瀬ヶ原全体の傾向をみるため、湿原に敷かれている1枚4mの木道を基準に北側と南側の各5mの範囲で、ミツガシワ、ニッコウキスゲ、ミズバショウの3種を対象にそれぞれの植物の有無と食害の有無を記録し、その結果から被食率を求めた。同時にシカの足跡やシカ道、ヌタ場の有無についても記録した。

調査ルートは、山ノ鼻から見晴にかけての「本線ルート」と、牛首分岐からヨッピー橋にかけての「ヨッピールート」の2ルートで、調査期間は2012年7月～10月の各月上旬に行った。調査した木道の枚数は総計2000枚弱となったため、それぞれのルートを木道25枚分（長さ100m）ごとの区画に分け、その区画ごとに植物と食害の有無を集計した。植物の有無は7月または8月にのみ記録し、食害の有無は毎月記録した。

【結果と考察】結果は表1と表2のとおりである。ミズバショウは2ルートともほぼ全域にわたって存在することが分かったが、食害が確認できたのは1区画のみだった。

ミツガシワは全体の半分ほどの範囲で存在を確認した。しかし、ミツガシワも食害がほとんど確認ができず、被食率は0～27%となった。

ニッコウキスゲは全体の7割程度の範囲で存在を確認し、さらに7～8月の花期に食害が多く確認でき、株が多い所に食害が目立っていた。足跡やシカ道、ヌタ場の記録と照らし合わせると、これらが多くある場所に食害が目立つ地点もあった。

これらのことから、シカは特定の植物を好んで食べるのではなく、時期や場所によって食べやすいものを優先的に食べているのではないかと考えた。

調査を行う中で、ミズバショウとミツガシワの2種については、株が木道周辺に生えていることが確認され、木道による尾瀬ヶ原への影響もうかがえた。なお、報道等で騒がれているミズバショウの食害は、本線ルートやヨッピールートではなく、他の場所で起こっているのではないかと考えられる。

【おわりに】表2のヨッピールートのニッコウキスゲについて、8月に記録した株数以上に9月の食害が確認され、被食率が100%を超えた。これは、背丈があるニッコウキスゲは周囲の植物が枯れた9月頃に目立ったためと考えられる。今後は、毎月株数を数えるなど、調査方法を改善し、尾瀬のシカに関する調査を継続していきたい。

